

神戸大学広報誌

Vol.21

[KAZE]

July 2023

Kobe University

Public Relations Magazine

風

ABUNDANCE

食の“豊かさ”を見つめ直す



ABUNDANCE

食の“豊かさ”を見つめ直す

特集1 海藻が蓄えるブルーカーボン 04

特集2 進化—食を新たに生み出す 07

統計データで遺伝をコントロール / 進化を加速するゲノム編集技術

特集3 “食”にまつわるデータを読み解く 10

農業の持続的発展を見通す / 新しい視点から見る世界 / 行動科学を食習慣の改善に

学内活動 「神大ACTIONS」 12

神戸大学学生環境サークル えこふる / フードドライブ活動 / 大学生協による食育

研究室紹介 「研究室へようこそ」 14

移動現象工学研究室(大村・菰田研究室) / 海洋・気象研究室 / 倫理学演習 /

医療機器コンセプト創造演習 / 村尾研究室(ムラボ) / 馬研究室 /

システム構造研究室(小林・中本研究室) / 勅使河原研究室

OBOG紹介 「きらり神大OBOG」 18

新垣 恒則さん(神戸大学体育会系公認課外活動団体OBOG会連合会会长)

進学・進路データ / 神戸大学キャリアセンター / 留学生の活躍 20

神大TOPICS / 神大人の本 22

巻末コラム 「神大生、今昔」 24

ピザハウスF 藤田 静江さん

ABUNDANCE

食の“豊かさ”を見つめ直す

【əbʌndəns】（名詞）豊富、満ち足りていること

自然がもたらす変化、海の作用による変化は、
太古から人類の食を豊かにする源でもあった。
だが今は我々自身が変化を起こしていかなければ、
食を維持することすら難しい状況に陥っている。

食の豊かさ、食物の選択肢を増やすために、
テクノロジーを駆使することも考え方のひとつかもしれない。
人の口に届くまでの食べ物の循環の形や身近な資源を見直すことで
見逃していた豊かさも、近くにあるかもしれない。

“sea change”という言葉がある。
シェークスピアが戯曲「テンペスト」で用いた言葉だ。
大きな存在である海が変化をもたらすことから
「大転換」の意味を持つようになったという。
神戸大学という知と仲間が集う場所から、
「海」にまつわるテーマを起点に、
“満ち足りた (abundance) ” 食を守るために
「大転換」を考える。



特集1

海藻が蓄える ブルーカーボン

海の中で進化を続けた「海藻」。陸に上がって進化し、再び海に戻った「海草」。

海藻草類の生い茂る「藻場」は、海の生物を育む大切な役割を担ってきた。

この藻場が日本の沿岸で減っている。

埋め立てや護岸整備、海水温の上昇などの環境変化で

海底が砂漠のようになる「磯焼け」が、いたるところで起きている。

いずれ貝や魚がいなくなり、豊かな漁場も姿を消すかもしれない。

私たちの食卓は危うい。

神戸大学内海域環境教育研究センターの川井浩史特命教授は

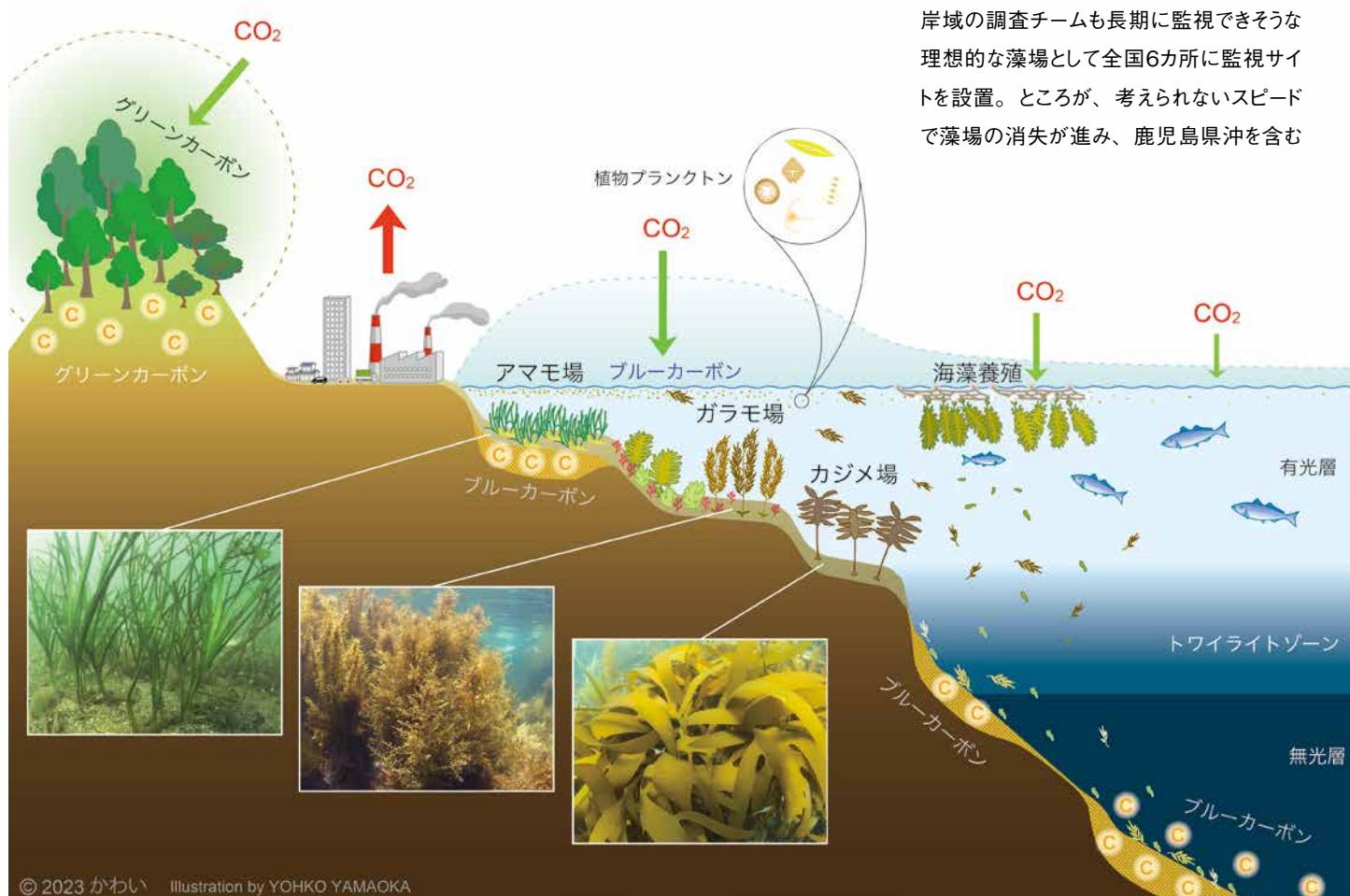
藻場の衰退に警鐘を鳴らし、地球温暖化から海を守る方策として

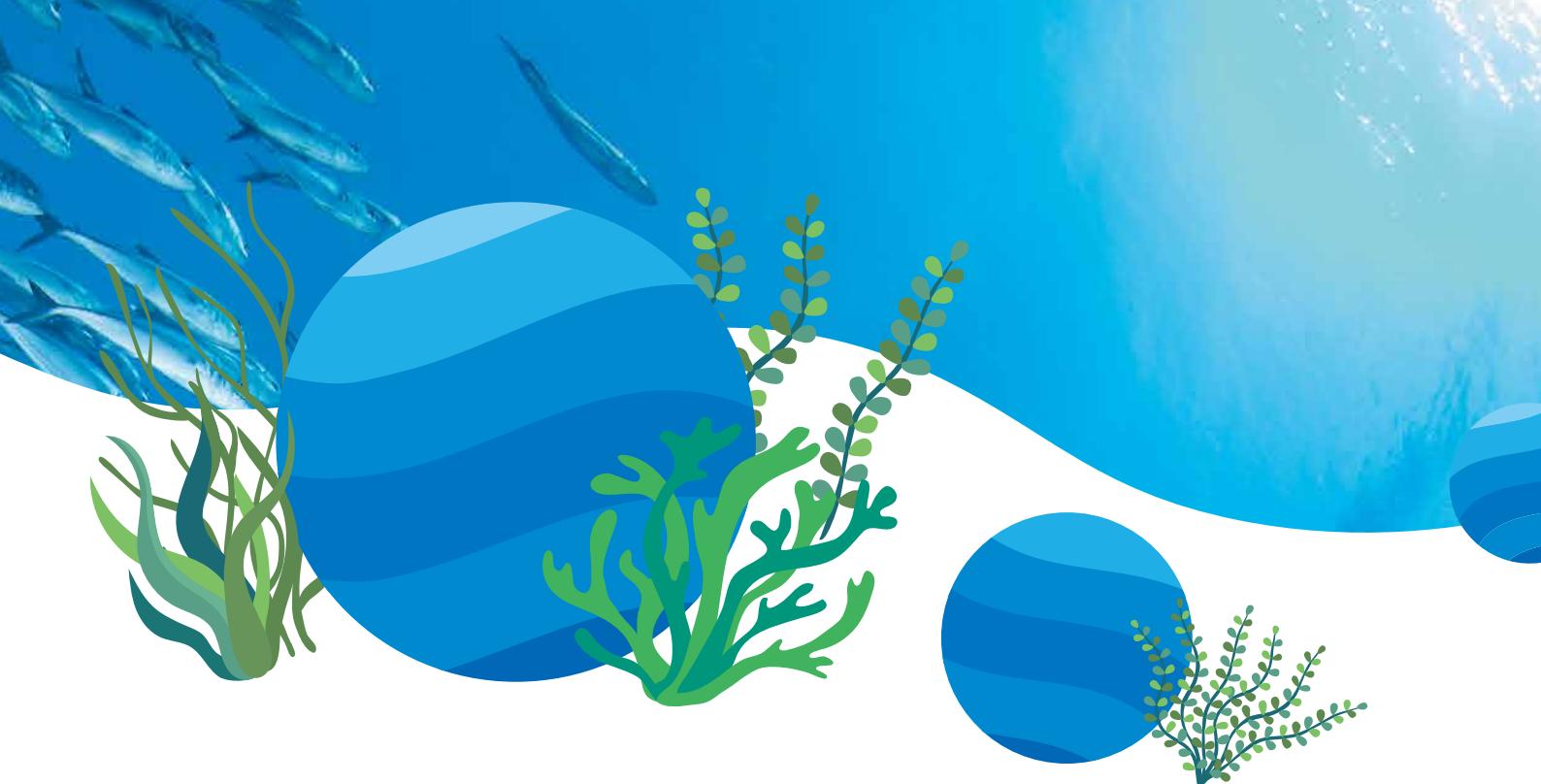
海藻に二酸化炭素(CO₂)を吸収・貯留する

「ブルーカーボン」の活用を呼びかける。

今、そこにある危機

「最も長期的に安定しているところを見ていたはずでした」、環境省の「モニタリングサイト1000」に参加し、十数年にわたり藻場の生態系を定点観測している川井浩史教授はここ数年の想定外の変化に驚いている。モニタリングサイト1000は100年以上にわたって国内約1000カ所の生態系の環境変化を見続けようという取り組み。2003年に始まった。川井教授を含む沿岸域の調査チームも長期に監視できそうな理想的な藻場として全国6カ所に監視サイトを設置。ところが、考えられないスピードで藻場の消失が進み、鹿児島県沖を含む





複数の地点で観測定点を変えざるを得なくなったという。

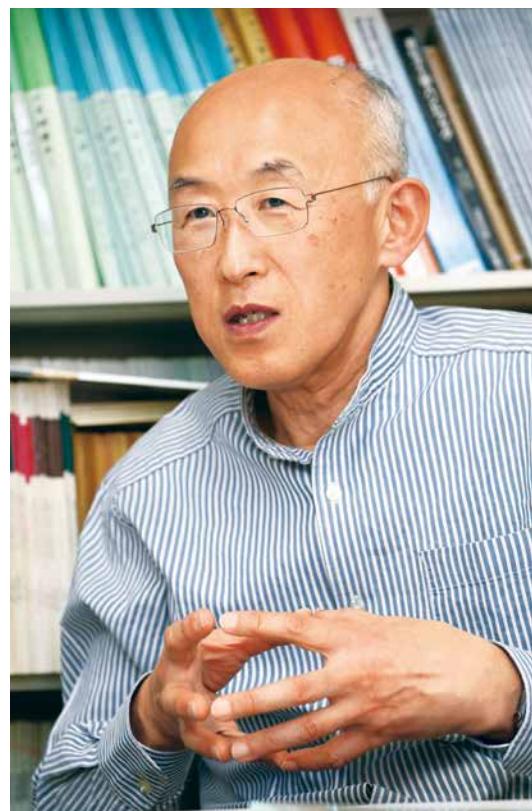
藻場が失われる「磯焼け」は、海藻や海草の成長・繁殖を妨げる赤土の流入や、ウニや魚などによる食害など、さまざまな要因で誘発される。ただ、日本の沿岸域はこの100年間で海水温が1–2°C上昇。水温が上がると魚介類の活性が高まり、食害が起こりやすくなる。また、高い水温を苦手とするコンブなどは冬に成熟しにくくなり、また夏場はより早い段階で寿命を迎えるようになる。水温の上昇が特に大きな影響を与えていているのは否めない。「この50年間で瀬戸内海のアマモ場はそれ以前の3分の1–4分の1に減少し、海藻の藻場も大きく減っています」。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は今後も最大4°Cの海水温の上昇を予測する。「今、サンゴが北上し、藻場がサンゴに置き換わっています。ただ、海に吸収されるCO₂が増えて海水の酸性化が進むとサンゴも生息できません。サンゴ礁は本来多くの魚が棲み着き、生物多様性・生産性の高い場所ですが、今後何十年か先、日本近海は亜熱帯に近い水温になるにもかかわらず、小形の海藻しか生えない貧しい海になるかもしれません」。

注目される ブルーカーボン

地球の表面の3分の2は海が占める。温暖化の原因として、やっかい者扱いされるCO₂は、水に溶けやすく、海中に吸収されると海藻や海草、植物性プランクトンの光合成に使われ、一部はこれらの内部に固定される。これらの生物の死後、CO₂は再び大気中に戻るが、藻場の消失が続けば、これが増加。温暖化が加速する。「きれいな海でも海底に光が届く水深150メートルまでしか光合成はできず、透明度が低いところでは数メートル程度になることもあります。地表の3分の2が海だと言っても、CO₂を吸収し、魚の餌となる海藻草類が生育する面積は数%にもなりません」。海の資源は面積ほど豊富ではないと、川井教授は声を大にする。

2009年、国連環境計画（UNEP）などが、報告書「ブルーカーボン」で、海藻草類やマングローブ、塩性湿地の植物など海の生態系に固定されるCO₂を「ブルーカーボン」と呼ぶことを提唱。陸域生態系による「グリーンカーボン」と区別することでその重要性を指摘した。これを受け、



“研究者は
トップランナーでなければ
なりません。”

川井 浩史 [KAWAI Hiroshi]

内海域環境教育研究センター 特命教授

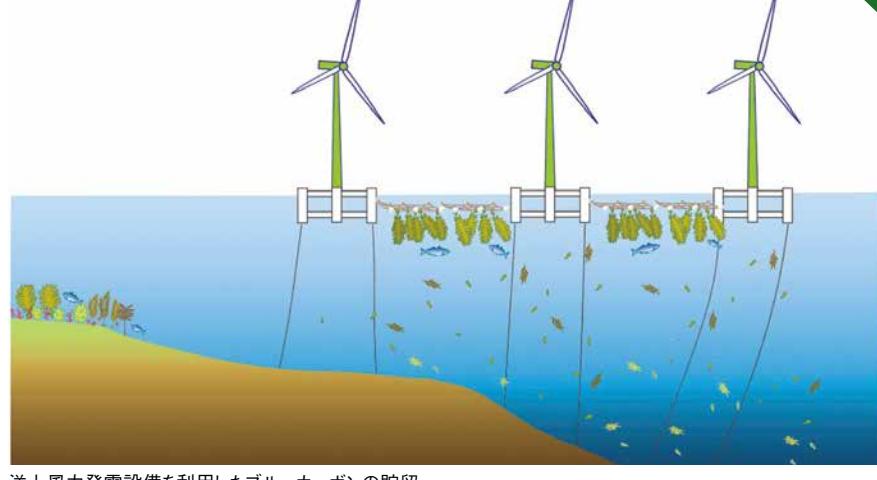
1983年北海道大学大学院理学研究科博士課程修了。神戸大学内海域環境教育研究センター教授、センター長を務め、2020年名誉教授、特命教授。いまも現役のダイバーである。

陸地の森林減少を上回るスピードで消失するブルーカーボン生態系を守る国際的な合意も形成された。しかし、2013年に出されたIPCCの報告書で藻場は国連気候変動枠組条約で報告が義務づけられている温室効果ガスインベントリには含まれなかった。「海藻は吸収してもすぐに分解してCO₂を放出すると考えられていました」と川井教授は解説する。

転機は2016年。英科学雑誌「Nature Geoscience」で海藻由来のCO₂貯留量を推定した論文が発表されると藻場に大きな注目が集まった。「コンブ類などの海藻が光の届かない深海に沈むことで、固定されたCO₂の10%程度が長期間貯留されると推定されたのです」。

日本に最適、藻場のブルーカーボン

マングローブの生育する地域が限られる日本では、藻場の維持や拡大がブルーカーボンに対するアプローチとして現実的だ。藻場によるCO₂固定は、今のところ温室効果ガスインベントリに含まれないが、SDGsの観点から国や自治体、企業もブルーカーボンに高い関心を寄せている。技術研究組合が地域の藻場のCO₂吸収量を認証して、クレジットを売買する仕組みが作られ、各地で活用が広がっている。一方で、ブルーカーボンの貯留を目的とした新たな藻場の形成には課題もある。「日本の沿



洋上風力発電設備を利用したブルーカーボンの貯留

岸の多くはすでにさまざまな用途で使われており、新たに大規模な藻場を作る余地はほとんどありません」と川井教授。そこで提案するのが、浮体式の洋上風力発電設備などと融合する戦略で、風車の間に浮力体を並べて、コンブ類などを育て、一部は食品や肥料として回収し、残りは深海に沈めて貯留する。「生態系への影響を十分調べる必要がありますが、沖合なので漁業への影響を軽減でき、場所によっては藻場による生態系サービスも期待できます。深海を含む広い排他的経済水域（EEZ）を持つ日本の特性を生かした取り組みです」。

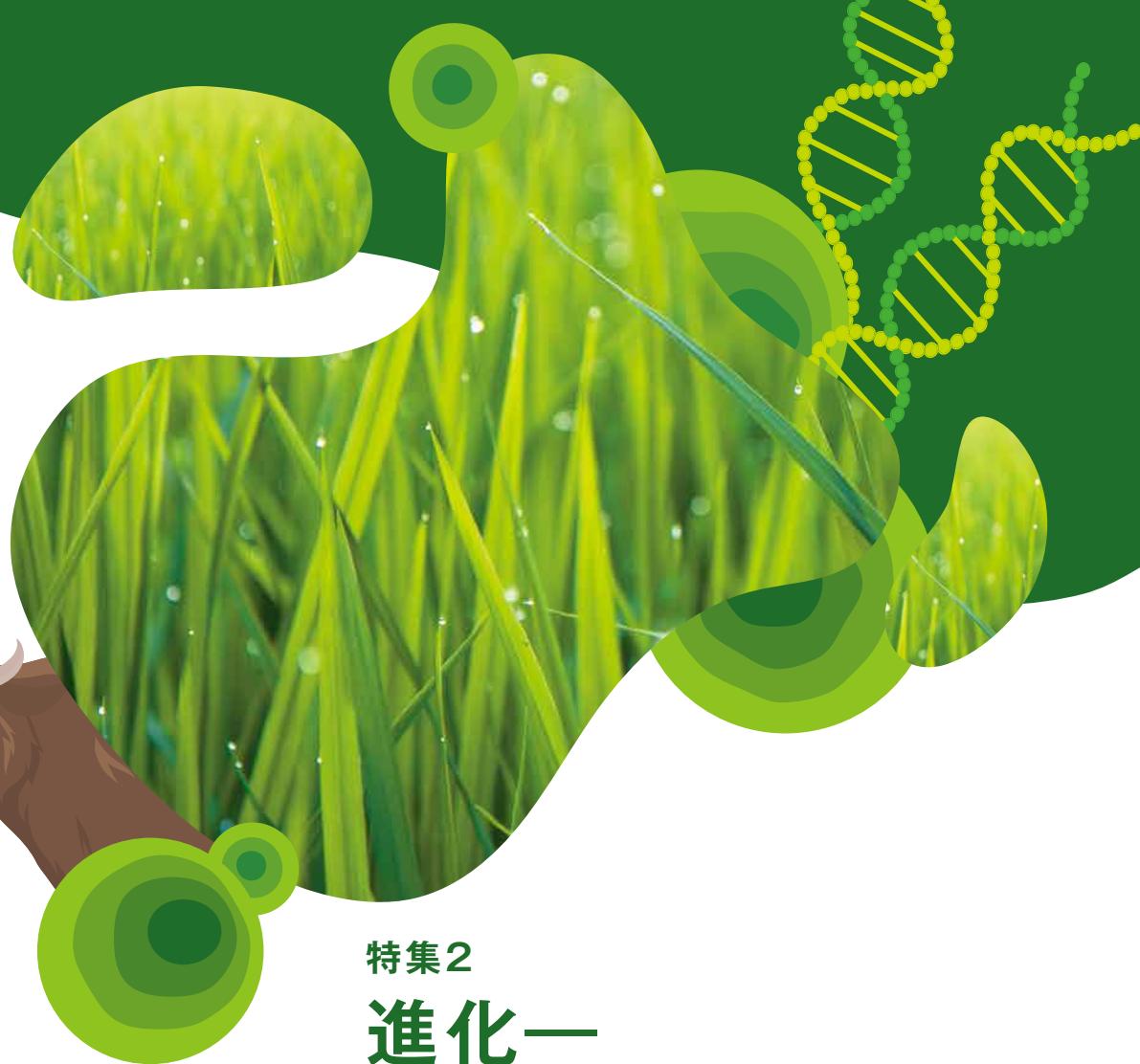
世界最大規模のコレクション

神戸大学内海域環境教育研究センターには、世界最大規模の海藻類系統株のコ

レクションがある。約300種、約1100系統を収集・保存しており研究用だけでなく、産業用にも提供している。牛などの家畜のゲップに含まれるメタンは温暖化をもたらす大きな要因の一つだが、飼料に混ぜることでメタンの発生を抑制することできる海藻に世界的な注目が集まった。さまざまな企業がサプリ開発を始めた頃、この機能を持った海藻の培養株を提供できたのは、世界でも神戸大学だけだったという。川井教授は23年間センター長を務め、退いたあとも特命教授としてこれらの培養株の管理にあたっている。「目的に応じた海藻種の選定や育て方などのコンサルティングも可能です。培養している株を養殖やブルーカーボンなどに活用してもらいたいですね」。さまざまな可能性を秘める海藻。これをうまく利用する取り組みの拡大が期待される。

六甲台キャンパスにある「海藻類系統株保存室」は世界中の藻を収集、保存している





特集2 進化— 食を新たに生み出す

生きとし生けるものは「進化」を繰り返してきた。
自然界における「進化」は「進歩」と同義ではない。
「進化」はあくまで「変化」あるいは「変異」であり、
誕生した新種が環境に適応できるかどうかによって種の未来が決まる。

人が生物の進化に介入できる時代が到来しつつある。
口当たりのいい牛肉、甘いトマト。
近い将来、我々一人ひとりが望む生物の種、嗜好を満たす
食材を手に入れることも可能になるかもしれない。
だが、それだけでは我々の食生活は「変化」したに過ぎない。

テクノロジーを活用して、いかに「進歩」に結び付けられるか。
他の生物と異なるのは、人類だけが考える力を備えている点にある。

統計データで 遺伝をコントロール

世界的な知名度を持つ「和牛」は人為的な選抜と交配を重ね、長い年月をかけて私たちの求める姿に改良されてきた。体重や肉に含まれる脂の量など1頭1頭のデータを分析し、明らかになった能力によって役割を与え、世代を重ねて形質をレベルアップさせる。しかし、和牛の持続可能性を考えるとき、「今ままでは行き詰まる」と、神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センターの大山憲二教授は危惧する。

和牛の生産では畜産団体などによって1頭ごとにさまざまなデータが取られる。大山教授はこの個体データから継承したい形質がどの程度遺伝的に支配されているのかを

示す遺伝的パラメータを推定し、和牛、特に黒毛和種の改良に生かしてきた。団体を通して集積されている全国の親子関係を含むデータは300万件を超える。「病気に強い牛、少ない飼料で育つ牛も作ることは可能です」。

経済の中で 失われる多様性

1989年、国際間の貿易自由化ルールを定めるGATT（関税・貿易に関する一般協定）ウルグアイ・ラウンドで牛肉の輸入自由化が決ると、日本の畜産業界は

和牛の高付加価値化・差別化に舵を切った。組織的な品種改良が強化され、データに基づき消費者の嗜好に合う牛、多くの肉が得られる体の大きな牛が作られた。和牛の「霜降り」の量は増え、重さも30年間で約100キログラム重くなった。こうした成果には神戸大学も大きく貢献した。

一方で集中的な交配を重ねた結果、和牛の多様性が失われてきた。人工授精で増やす和牛は、雄牛が少ない。雌牛60万頭に対し、交配される雄牛はわずか700頭。さらに供用の偏りを考慮すれば父親は20頭ほどが均等に使われている状況と同等で、血のつながりによる遺伝子の重複も考慮すれば5頭程度と試算される。血が濃くなれば、遺伝病のリスクが高まる。さらに問題なのが、遺伝子の多様性が失われて形質を変化させづらくなることだ。「今が完成形ならクローンを作ればいいかもしれない。しかし、人の嗜好は必ず変わります」。

持続可能な品種改良

2022年10月、大山教授が審査委員長を務めた全国和牛登録協会の品評会で、肉の外観の評価に加え、脂に含まれるオレイン酸を測る“質”的評価が実施された。オレイン酸を多く含む牛肉はとろけるような食感を持つ。この試みには和牛の付加価値を高めるとともに、霜降りに進みすぎた改良に歯止めを掛けようという思惑もあった。評価基準が変われば、求められる遺伝子も変わってくる。「今なら間に合います」と大山教授は力を込める。将来に選択肢を残すためには食肉・畜産業界と畜産農家の意識改革、何より生物としての和牛が持続可能な中で「おいしい牛肉」を求める消費者自身の節度が欠かせない。

膨大なデータを扱う「統計遺伝」はデータサイエンスの範疇で、時流に乗る分野。牧場実習や農場実習が学生には人気です。’’



大山 憲二 [OYAMA Kenji]

大学院農学研究科附属食資源教育研究センター 教授

1997年、神戸大学大学院自然科学研究科博士課程生命機能科学専攻修了。2011年より神戸大学教授。専門は家畜育種学。羊に興味をもち畜産を専攻したが縁あって牛をテーマに。

進化を加速する ゲノム編集技術



生き物は長い時間をかけてDNAの塩基配列、つまり生命の設計図が変わることによって進化してきた。人為的により良いものを生み出すため交配による品種改良を行われているが、莫大な時間がかかる。これに対し、進化プロセスを大幅に加速できるのが「ゲノム編集」だ。ゲノム編集の新たな技術を開発した神戸大学先端バイオ工学研究センターの西田敬二教授は「農水産物の進化を劇的に速め、豊かな食にも貢献できます」と、そのポテンシャルを語る。

“切らない”強み

西田教授が2016年に発表した新たなゲノム編集技術「Target-AID」はDNAを切ることなく特定の塩基配列を書き換えることができる。

2012年に開発され、ノーベル化学賞を受賞した画期的なゲノム編集技術「CRISPR-Cas 9」が研究の契機となった。世界の多くの研究者はCRISPRを活用することを考えたが、西田教授は違っていた。「CRISPRの先に行くために何をすべきか」を考えた。新しいものを生み出すには「他の人がやらないという前提が必要」

と考えていたからだ。

CRISPRは2段階のプロセスからなる。まずDNAの塩基配列を読み取り、編集の標的とする部位を決める。決めた後に配列を切断し、細胞の自己修復機能に委ねる形で編集する。狙った配列に変わる確率が小さく、ゲノムを切る行為によって最悪の場合は細胞が死んでしまう問題があった。

Target-AIDも部位特定プロセスは同様だが、配列を切るのではなく化学反応（脱アミノ化）で文字をピンポイントに置き換えられる。自然の進化プロセスに近いため、細胞への影響もほとんどない。

“豊かな食”につなげる

Target-AIDを含めた新しい切らないゲノム編集技術は、一般には塩基編集と呼ばれ、その一部はすでに遺伝子治療では臨床試験に入り、食の面でも農作物などの品種改良を効率化し、収量増や特定の機能を向上した食材を実現できることを確認している。交配による従来の品種改良は不確実で、成果が得られるまで何年もかかっていた。Target-AIDでは、例えば甘み成分を高めたトマトを生み出すことも容易に数ヶ月レベルでできる。

ただ「実際に広く活用されるには越えなければならないハードルがあります」と西田教授。かつて遺伝子組み換え技術で社会に受け入れられなかった例があるが、それは自然界では起こり難いプロセスだった。「ゲノム編集は自然にも起こりうるプロセスをより精密に行ってます」と安全性への自信を示す一方、「世間のイメージとしてどうとらえられるかはわかりません」と懸念する。ゲノム編集によって豊かな食が実現するかどうかは、もはや技術の問題ではない。新たな食材がビジネスとして成立するかどうか、つまり私たちがその安全性を理解し消化できるかどうかにかかっている。

“他の人が簡単には思いつかないことをするには、常にさまざまな素材を頭の中に補充し、自分にしかない条件で突然浮かぶ答えを聞き漏らさないことが大切です。”

西田 敬二 [NISHIDA Keiji]

先端バイオ工学研究センター 教授

2006年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。米国ハーバード大学研究員などを経たのち、近藤昭彦教授（現副学長）に出会い神戸大学へ赴任。2018年から教授。



特集3

“食”にまつわるデータを読み解く

農業の持続的発展を見通す



経済学の観点から人口や農業問題を研究しています。特に、計量的な研究をすることが多い、データから客観的な事実を引き出せるところが興味深いと感じています。通説とは異なる結果が出ることもあり、その理由についての議論は尽きません。神戸大学経済学部在学中に受けた山口三十四先生の講義「食料経済論」のインパクトが強く、現在に至るまで農業経済を専門分野としています。

日本の食料自給率を高めるには、農業を持続的に発展させる必要があります。しかし農業の担い手は減少続けており、高齢化もあいまって農業の未来が見通しにくくなっています。

2014年5月に国家戦略特区「中山間農業改革特区」の指定を受けた兵庫県養父市において、既存農家や

参入企業などへの調査研究を実施しました。特区の規制緩和を受けて農業に参入した事業者は一定の成果を上げており、規模や雇用の拡大意向が強いところが多いという結果でした。既存農家の多くは事業承継への不安を抱えており、農業の持続的成長には企業が農業に参入し、農業の生産性向上、高付加価値化を図る必要があるという結論を導き出しました。

農業の立地環境によってできることは左右されます。平野部では規模を拡大し、効率の良い農業を推進するべきでしょうし、中山間部は棚田など効率が悪く規模拡大が難しい半面、景観や環境、国土保全への効果もあり、保護する必要があるでしょう。また担い手不足を解消するために期待される新規就農者の拡大に向けて、研修などの指導を組織的に進められる企業の農業参入も一つの選択肢であると思います。

衣笠 智子 [KINUGASA Tomoko]

大学院経済学研究科 教授

学部、修士は神戸大学で学び（山口三十四（みとし）先生に師事）、2004年ハワイ大学で経済学博士号取得。主として日本農業に関する計量的研究を行ってきた。2015年より神戸大学教授。



専門はラテンアメリカの近現代史。特に“辺境”から見たグローバル・ヒストリーを研究しています。歴史的に見てなぜ今があるか、人の営みの基本である“食”をテーマに、国や地域の具体的なつながりやそこから生まれる歴史や文化を調べています。世界史を理論で捉える研究もありますが、それすべてが説明できるとは思いません。また一般的なグローバル・ヒストリーも含め、見ているのは総じて先進国に軸足を置いた世界です。

食は文化や思想に影響を与えます。冠婚葬祭などあらゆる場面に介在し、何を食べるか食べないかでその人の宗教がわかります。食を起点にすれば、国の自由なつながりを多様な視点で見られます。今、日本では世界中のコーヒーが手に入りますが、日本での生産量はごくわずかです。小国の生産者がいなければ、日本のコーヒー文化も成り立ち得ません。辺境の地から見るこ

“食”を考えるとき、その切り口は百人百様。

生物そのものなど自然科学系の研究もさることながら、人文社会系のアプローチが、“豊かさ”的追求には欠かせない。

世の中には“食”に関わるさまざまなデータがあふれている。これらを読み解けば、違う景色も見えてくる。

行動科学を 食習慣の 改善に

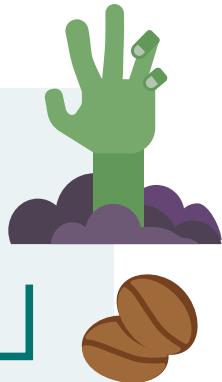
小澤 卓也 [OZAWA Takuya]

大学院国際文化学研究科 教授

1998年立命館大学大学院文学研究科博士課程修了。

2012年より神戸大学教授。途上国から見たグローバル・ヒストリーをテーマに中米諸国を研究。近年は災害時に避難所でも「おいしい食事」を提供しようという取り組みに参加する。

新しい
視点から
見る世界



とで小国が先進国に与える影響を知ることができます。

一方、食が人の営みの基礎であるなら、これを破壊して恐怖や不安、嫌悪を呼び起こす娯楽がホラー映画です。人を捕食し増殖する「ゾンビ」のように、一般的な食の意味を逆転させた要素が数多くあることに気づき、歴史的な視点から映画業界や残酷描写の変遷などについて研究しています。現在、私のゼミには、ホラー研究の中国人院生が2人います。ホラー研究はまだ発展途上なので、彼女たちが第一人者になる可能性があります。私自身も、近々にホラー関連の論文を発表する予定です。

食習慣の改善は生活の質（QOL）の充実や健康寿命の延伸につながります。生活習慣病は特定健康診査・特定保健指導が始まる40歳から深刻視されますが、子どもの頃から形成されてきた食習慣を変えるのは容易ではありません。

近年は特定保健指導を担う管理栄養士や保健師らの養成カリキュラムで行動科学の基本的な枠組みを学びます。ただ、生活習慣の改善といった行動の変化を促すような対人スキルはすぐには身につきません。経験を踏まえた実践的な学びが必要です。このため心理教育など習慣の改善に有効なプログラムの開発につながる実践的な研究を長く続けてきました。この成果を「食習慣改善支援ツール」として発信しています。健康施策に積極的な兵庫県と専門職向けの研修を開いているほか、2022年度からは健康ビッグデータの活用でも連携が進んでいます。

加藤 佳子 [KATO Yoshiko]

大学院人間発達環境学研究科 教授

2005年広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。2014年より神戸大学教授。22年には心の研究の中心地オーストリアにおける心理職制度を調査し、日本における公認心理師制度普及にも尽力している。

ウェル・ビーイング（善き生）と生活習慣に研究の軸を置く中で、“食”は特徴的なアプローチの一つです。何事にも行動を促すには本人の「動機付け」が大切ですが、大学生を対象にした調査では、幼少期に食事作りに参加したと回答した人ほど、このクオリティが高い傾向にありました。これを受け、5年前から子育てるお母さんと食育活動の取り組みも始め、実践の中でも「経験して良かった」という声を得ています。食は心にさまざまな影響を与えています。心の研究者を含め心の支援にかかるもっと多くの専門職にこの領域に入ってきてほしいですね。



神大 ACT!ONS

“食”に関する学内活動をご紹介

Action-1 神戸大学学生環境サークル「えこふる」



環境問題 わかりやすく伝えたい

国際人間科学部2年
代表 小城戸 愉子さん



▲「環境かるた」
出張授業風景は下記QRから



神戸大学学生環境サークル「えこふる」は、神大生にエコの意識を広げ、学生生活の身近なところから環境対策を実践してもらおうと啓蒙活動に取り組んでいる。昨年から代表を務める小城戸愉子さんは国際人間科学部の2年生。農学研究科の大学院生2人と小城戸さんと同学部の学生1人の4人で、学内に掲示する環境月間ポスターの作成や、小学校への環境出張授業、eラーニングコンテンツの製作などに取り組んできた。

小城戸さんは「例えば、安価で人気のファストファッションはつい欲しくなります。でも流行が去るのは速く、捨てるまでは短期間。ここに環境を考える意識が必要です」と、若者の物欲と環境問題の相反を指摘する。加えて、ファス

トファッションは低賃金労働に代表される人権問題も引き起こすと言われている。「環境と経済の関係などもわかりやすく伝えていきたいですね」と意気込む。

昨年は神戸大学附属小学校で出張授業も実施した。「環境かるた」大会と丁寧な講義を組み合わせた授業は、現場の先生たちにも好評だった。かるたは日常に取り組める環境対策を読み札にしたオリジナル。遊びながらも「食べ物を無駄にしない」という気づきを与える工夫を凝らして、子どもたちの心をガッカリつかんだ。次の出張授業は「いま神戸市灘区の学童保育所で受け入れてもらえるよう調整中」と小城戸さん。今度は食品ロスと地球温暖化をわかりやすく伝えるべく、内容を練っているという。

◀環境月間ポスター



▼大学で集まった食品



自分ができるところから 社会貢献を

文学部4年
大坪 日向子さん



2022年12月、神戸大学鶴甲第1キャンパスの学生食堂前で学内初の「フードドライブ」が実施された。旗を振ったのは現在、文学部4年生の大坪日向子さん。平日の午後、計4日間で缶詰や麺類など69品目、約14キログラムの食品を集めた。

フードドライブは余っている未使用の食品を集めて、フードバンクや福祉施設などに寄付する取り組み。SDGsの観点からフードロスを減らす運動の一つとして、地域のスーパー・マーケットや企業、学校などに広がりつつある。「物価の高騰で個人から寄せられる食品が減っていて、何かできないかと考えました」と大坪さん。ボランティアで手伝っていたフードバンクの食品棚の変化を見て、行動を決意したという。

たった一人で始めた取り組みだったが、環境サークルや農業サークルのメンバーの支援を得て、実施までに13人の協力者が集まつた。「開催期間中は、多くの教職員や、学生も寄付しに来てくれました。イベント後には活動に興味があると声をかけてくれる学生もいました」と、手応えをつかんだ様子。初回を終え、告知方法や開催時期の課題も見えた。

学生らの生活も厳しい中で活動を広げていく難しさはあるものの、「フードドライブは何度もやっていく中で、参加が増えてくるものです」と大坪さんは力を込める。次の開催時期はまだ決めていないが、年末などの贈り物シーズンを視野に考えていきたいとしている。

Action-2 フードドライブ活動



学生の食生活に寄り添う、食堂の管理栄養士

神戸大学生活協同組合も加盟する大学生協事業連合（関西北陸地区）のもと、多くの大学の食堂メニューが共通化されてきた。しかし神戸大学の学生食堂は今も独自メニューを考案、提供する裁量を持つ。支えているのは長く独自仕入れで運営してきた実績と、専任の3人の管理栄養士の存在。管理栄養士の加藤真理子さんは「そもそも管理栄養士のいる食堂が珍しい」と話す。

管理栄養士がいる強みを生かし、神戸大学では多くの野菜が取れる主菜と副菜を組み合わせたオリジナルの「バランスセット」などを提供。栄養が偏らないメニューの選び方を教示する。「卒業するまでに正しい食生活を身につけてほしい」と、同じく管理栄養士の幸福淑恵さん。管理栄養士が悩みに答える食生活相談も人気で、開けば多くの学生が参加する。「職員なので食堂のメニューに絡めたアド



▲日替わりハラルランチ + Sライス 424円(税込)



▲左:加藤さん、右:幸福さん



▲食生活のアドバイスが丁寧に書き込まれた「分析結果のお知らせ」

バイスも可能です」(加藤さん)。コロナ禍の間はオンライン対応がメインだったが、今年は11月上旬に各キャンパスで、3年ぶりの対面実施を計画する。

一方、6月12日、ムスリム、ベジタリアン、ヴィーガンら向けのメニューを揃える「ランス・ハラル・ベジ・ダイニング」が3年ぶりに営業を再開した。「勉強したいのに食事に時間を取りられる」という留学生の声から加藤さんが設置に尽力した食堂だ。コロナ以前は日本人学生を含め、毎日100人程度が来店。国際色豊かな神戸大学らしい食堂として人気を博したという。賑わいを取り戻したキャンパス。3人の管理栄養士が工夫を凝らす食堂をぜひ巡ってほしい。

全食堂の中で最も売上数の多い 工学部食堂 売上数ランキング

全体 TOP 5		小鉢部門 TOP 3		主菜部門 TOP 3	
No.1 ライスS	15,832	No.1 チキンフリッター	13,586	No.1 ハンバーグおろしソース	2,036
No.2 かき玉汁	14,771	No.2 ほうれん草胡麻和え	10,732	No.2 チキン香草焼き	2,016
No.3 ライスM	14,676	No.3 ミニサラダ	7,035	No.3 鯖生姜煮	1,998
No.4 チキンフリッター	13,586				
No.5 味噌汁	11,199				

主菜、副菜、汁物をバランスよく
食べている神大生の様子がうかがえる

▶▶ 学生食堂のデータを教育にも活用中!

神戸大学は神戸大学生活協同組合と共同研究契約を結び、学生食堂の売上数データをデータサイエンス教育に活用している。データサイエンスPBL演習では、学生がデータから食堂の課題を見つけ、解決策を提案するプログラムが実践されている。

(調査期間2022年10月～11月)

**大村 直人 大学院工学研究科教授(理事・副学長)**

気体、液体、固体からモノを作るとき、これらを流し、暖めたり、乾燥させたりします。この装置を開発する学問が化学工学です。当研究室では化学工学の基礎となる移動現象の基本原理を中心に学び、工業的な技術の開発能力、設計能力を身につけられます。

私が助手を務めていた時代も含めると当研究室のゼミは30年以上の歴史があります。送り出した学生は300人以上。学んだ内容の応用範囲が広いことから、就職先も化学工業分野に限らず多岐にわたっています。

学生コメント

【洲戸歩さん】

Q1:先生の面白いところは?

何げない一言を拾って繰り出すジョークにいつも頭の回転の速さを感じています。そんな大村先生の色が濃く出ているゼミにもぎやかで穏やかです。質疑応答は活発で研究方針もすぐに固まっていきます。

Q2:研究から学ぶことは?

研究テーマを自分が興味を持てる内容に落とし込み、ゴールまでの道筋を描いて研究を進めます。私は茶筅(ちゃせん)による抹茶の攪拌(かくはん)動作の解析と、泡立ちの違いを研究しています。考える力が自分の武器です。

ようこそ

**林 美鶴 内海域環境教育研究センター准教授**

当研究室の歴史は神戸商船大学まで遡り、長い伝統があります。

船舶の運航にとって気象・海象の解析はとても重要です。当研究室では船舶運航の応用面についてだけではなく、現象論などもう少しベーシックな研究も加わっているのが特長です。附属練習船「海神丸」に乗船して、船に設置されている気象・海象の観測装置で常時観測のデータを収集するフィールドワークも行い、現状把握と将来予測の知識を深めていきます。

学生コメント

【藤田真大さん】

Q1:ゼミ生の雰囲気は?

ゼミは落ち着いた学生が多いため、研究も落ち着いた感じで進んでいきます。今は2週間ごとに発表があるのですが、発表者に対する質問はハキハキと活発。“にぎやか”よりは“真面目”な雰囲気で、互いに高め合っています。

Q2:先生から影響を受けていることは?

林先生は、礼儀やあいさつなど人として欠かせない振る舞いの指導にも重きを置いています。学生に対して“人間力を高めてほしい”という思いを強く感じています。



研究航海にお供させてください。
もっとたくさん、
船に乗りたいです。

研究室へ



安倍 里美 大学院人文学研究科講師

倫理学は対象領域が広く、演習では現代英米系の理論を中心に、生命倫理など応用倫理も幅広く探究します。哲学や倫理学は概念分析の抽象的な部分も多く“いかつい”印象を持たれがちですが、実際は日常の中で判断に悩むこと、例えば「“良い”ってそもそもどういうこと?」といったことに関心があれば誰でも歓迎です。

演習ではテキストをしっかり読み込んで、練り上げられた倫理学のロジックを理解し、自らの考えを組み立ててもらいます。

学生コメント

【赤坂知紀さん】

Q1: 演習の形式は?

演習はレクチャーとディスカッションで構成されています。先生から提示された文献を学生間でパート分けし、各自レジュメを作って発表します。哲学の文献を読むのは大変ですが、当日までには何とかします。(なっていないこともあります)

Q2: 哲学の魅力はどこにありますか?

考えることが好きな仲間とともに各々が気になっていることを議論したり、自分の持つ漠然とした違和感に輪郭を与えること。このあたりが哲学や倫理学の面白さだと思います。

現場で使われる医療機器を みんなで作ろう



保多 隆裕 大学院医学研究科特命教授

医療創成工学専攻の狙いは医療機器を開発できる人材の育成です。医療現場のニーズを元に機器のアイデアを広げる。学生が現場に入れる医学研究科の中にこの専攻を置いた理由の一つも、実践的な教育のためです。医療機器開発には多様な専門性を持つ人材が必要ですが、座学の特論と演習を連携して進めるこの授業には工学部から進学してきた学生や機器メーカーの社員、医療従事者らがいます。ニーズ探索・選別、コンセプト創造やラピッドプロトotypingなど開発の初期プロセスを一緒に学んでいます。

学生コメント

【猿丸 歩さん】

Q1: 医療に従事されているそうですね?

神戸大学医学部附属病院で臨床工学技士をしています。外と交わる気風の強い職場で、機器開発に興味を持っていた私の背中を、みんなが「行ってこい」と押してくれました。最初は病院の役に立ちたいという一心でしたが、今は地域、日本にも貢献したいという思いが強くなっています。

Q2: 保多先生はどんな人ですか?

「人を巻き込む力が大事。いつでも巻き込んでほしい」とおっしゃっていて心強く思っています。今、まさに巻き込もうとしているところ。4月からの短いお付き合いですが、すでに3、4年経っているような気がしています。

グループで考案した機器の試作品も身近な材料で製作する



AIやデータサイエンスで
異文化理解

雑談が盛り上がり過ぎて、ゼミが予定通りの時間に終わらないのが玉に瑕です。



村尾 元 大学院国際文化学研究科教授

機械学習や人工知能(AI)、データサイエンスの技術を使い、言語や文化、社会の課題などを分析し、異文化理解につなげます。ゼミではこれら技術・手法の基本的な知識が身につけられます。加えてどのように社会課題解決に適用するかを考えます。就職先はITやコンサルが多く、起業や海外の大学院に進学した卒業生もいます。

私自身は工学部の出身ということもあり、グローバル社会について学ぶ当学部生・院生ならではの問題意識や意見に刺激をもらっています。

学生コメント

【北原陽太郎さん、城戸野々香さん、桑原樹さん、能登谷優志さん、上野隼人さん、高畠寿々菜さん、廣瀬由佳さん】

Q1:どんな先生ですか?

仮想現実(VR)機器やメタバースのサービスを使ってゼミ運営をするなど、新しい物も「まずは試してみる」というのが村尾先生の姿勢です。それはゼミ生にも影響していて、今後、どのような仕事をするにしても強みになるのではないかと自負しています。

Q2:志望動機とゼミの雰囲気は?

「ITを広く学びたい」「データを使って社会分析をしたい」など志望動機はさまざま、キャラも全員違うけれど一体感があるのは先生の人柄のお陰です。

国際的視点で
ビジネスを研究



海外とのビジネス交流が多い馬先生

先生へは、感謝とともに働き過ぎとコーヒーの飲み過ぎを心配しています。



馬 岩 大学院経営学研究科教授

経済学と経営学の二つと一緒に学ぶことができるが、このゼミの特長です。一つは国際貿易に関する研究、もう一つは国際ビジネスに関する研究です。学生の志向も異なるため「理論分析と実証分析の両方が学べるように」と考えて指導しています。

ゼミではビジネス経験がある学生の経験談など、皆で共有するように心がけています。学生には「最後までやりぬく人」「独立性のある人」「やさしい人」になってほしいと願っています。

学生コメント

【周凌風さん、張雨涵さん】

Q1:留学先に神戸大学を選んだのはなぜですか?

アメリカの大学を卒業後、中国に帰国し、国際貿易関係の会社に就職しました。ですが実務に携わるうち、経営学をより深めたりました。英語で学位が取れる神戸大学の「SESAMI Program」は中国でも有名で、ゼミの研究テーマが就業経験と一致していたことから馬先生のもとに来ました。(周)

Q2:卒業後の目標は決めていますか?

ゼミを通して経営学の専門的な知識や分析手法、加えてコミュニケーションスキルも身についてきました。難しい目標ですが、セミナーなどを通じて研究職の道を見つけていきたいと考えています。(張)

こんな研究

中本 裕之 大学院システム情報学研究科准教授

例えば、食感が対象であれば、センサーを組み込んだロボットでサンプルを嚥んだ際に生じた力や振動、音を計測し、これらのデータを集約して食感を評価します。この研究室ではセンサーの開発、計測工学に軸足を置き、人工知能や機械学習などのトレンド技術を用いた解析手法なども学びます。“もの”を一から作る発想とデータ解析やさまざまなアルゴリズム、ハードとソフトの知識と技術をバランス良く身につけて、ゼミ生は電機メーカーや情報通信系、インフラ系企業などで活躍しています。

学生コメント

【清水智美さん、青木尊啓さん】

Q1:先生の意外な一面は?

ミーティング時は終始、真面目な姿しか見せられず、研究室にはちょっとした緊張感すら漂いますが、お酒を飲むと、先生はとても饒舌になられます。研究室では聞くことのできない、お子さんの話やゲームの話、趣味の話で場も盛り上がります。

Q2:研究室での活動時間は?

人によって異なりますが、食感の研究では音を測るために、必然的に人の少ない夜間になります。複数の人のデータも必要になるので、学生同士で協力し合っています。夜遅くなり疲れてくると、みんなでゲームを始めることもあります。

計測から解析まで

情報技術を学ぶ



勅使河原 君江 大学院人間発達環境学研究科准教授

美術・造形活動を通した人の発達や教育支援の考え方を学び、その在り方について模索するゼミです。ゼミ生は年に10回ほど神戸市立小磯記念美術館で開催する子どものためのワークショップ「びじゅつかん大作戦」に携わり、実際に子どもたちと対話的美術鑑賞を行います。理論の習得と実践を通して、課題を発見し解決する力やコミュニケーション力を身につけられます。これまでの卒論の研究テーマは「対話的美術鑑賞」に限らず、「絵本の在り方」や「幼稚園や小学校で実践される美術教育活動」などみなさん幅広く取り組んでいます。

ゼミ生と先生のみんなでご飯を食べに行きたいです!



小磯記念美術館で開いている「びじゅつかん大作戦」の様子
(画像提供:神戸市立小磯記念美術館)

美術・造形活動を通した保育・教育

学生コメント

【杉本明穂さん、飼沼来望さん、上田杏奈さん、高山悠一さん、加藤優奈さん、春日和さん、伊東芽生さん】

Q1:どんな先生ですか?

授業や研究だけでなく、美術関連のシンポジウムの運営に携わっていてとてもアクティブで明るい先生です。美術館でのワークショップの時も、いつも子どもたちと一緒に楽しんでいて美術の魅力を伝えたいという気持ちが、伝わってきます。

Q2:普段の活動は?

研究について学生同士でアドバイスし合うこともありますが、ちょっとしたことで笑ったりと和やかな雰囲気で活動しています。子どもや美術、造形活動をキーワードにそれぞれのゼミ生が本当に興味を持ったことを突き詰められるゼミです。

OBOG 神大
きらり



馬術とわたし

現役の馬術部員、所属馬の凌薰とともに(六甲台キャンパス)

神戸大学体育会系公認課外活動団体
OBOG会連合会会長

新垣 恒則さん

「ノブレス・オブリージュ(地位には責任が伴う)の気持ちで行動してきました」と語るのは新垣恒則さん(経営学部1965年卒)。馬術部OBとして、監督や技術指導を長年続け、82歳の今も神戸大学体育会系公認課外活動団体OBOG会連合会会長を務める。





男性7人、女性3人が馬術部の同級生(後列の左から2番目が新垣さん)

テントの後ろのきゅう舎は今も健在



東京五輪時の様子(左から2番目が新垣さん、軽井沢)

新垣さんは入学してすぐに馬術部に入った。新入生勧誘の体験乗馬で「筋が良い」というおだてに乗ったのが、きっかけだった。ただ「当時の経営学部には日本トップクラスの教授が何人もいらっしゃった。この先生方が『生涯の友人をつくるため、クラブ活動も大事にするように』とおっしゃる。私も馬術に熱が入りました」と新垣さん。馬を世話するため、馬房に泊まり込み、部員同士、夜通し語り合った。一方で部活の合間には選択していない講義に出席。夜間部（当時）の講義に出るなど、勉強の手も抜かなかった。1964年、4年生で出場した関西学生王座戦では、その年の全国大会優勝校と競り合い、2位になった。同年の東京五輪では総合馬術競技の学生役員に就任。そこで日本と全く異なる海外の馬の乗り方を知った。

就職後も社内の馬術部に入り、馬と関わり続けた。障害馬術の国際審判員の資格を取得し、「世界の馬術」に手が届いた1998年、神戸大学OB会の強い要請で、大学馬術部の監督に就いた。会社は週休3日制。週末に東京と神戸を往復するハードなスケジュールを10年以上こなした。学生との関わりは刺激的でやりがいを感じたが、直接的な大学関係者ではない監督の苦労も痛感した。部内の問題はすべて自らが解決を図らなければならなかった。この状況を変えようと2021年に発足したのが、体育会系公認課外活動団体OBOG会連合会。「最後のご奉公」と進んで初代会長を引き受けた。私立大学の強豪ひしめく学生スポーツの世界。この中で新垣さんは全日本学生馬術連盟の副会長・理事、関西学生馬術連盟の会長を今も兼務する。

自身の学生時代を「明治以降の日本人で最も恵まれた世代」と振り返る。私学の年間40万円に対し、9000円という破格の授業料。素晴らしい講義を受け、クラブ活動を満喫した。「同様に充実した大学生活を後輩学生にも送ってほしい」。新垣さんの「ノブレス・オブリージュ」の思いはそこにある。

PROFILE

新垣 恒則(あらがき・つねのり)

1941年神戸市生まれ。神戸大学経営学部卒業、日本IBM入社。神戸大学馬術部在籍時に東京五輪総合馬術学生役員、日本IBM馬術部在籍時には日本社会人馬術連盟副理事長も務めた。1998年から2010年まで神戸大学馬術部監督、2015年まで技術指導を行った。国際審判員の資格を持ち、2004年学生馬術世界選手権(東京)の障害馬術主審を務めた。2016年2月から関西学生馬術連盟会長。2021年4月から神戸大学体育会系公認課外活動団体OBOG会連合会会长。日本馬術連盟2022年度功労者表彰受賞。



愛馬・松籟(しょうらい)と障害飛越に挑む

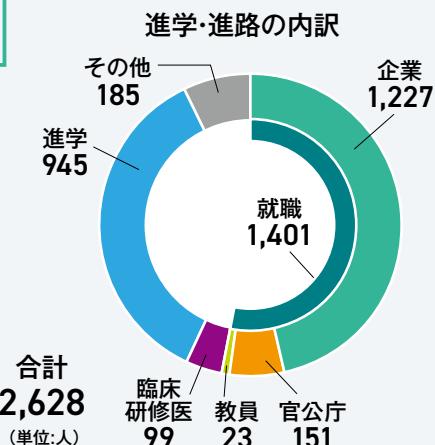
DATA & INFORMATION

進学・進路情報

❶ 進学・進路データ

2022年度の学士課程卒業生は2628人。うち36.0%が進学し、昨年度より0.7%減となった。また、就職した卒業生は53.3%で、昨年より2ポイント増えている。

※2023年度 学校基本調査を基に作成（2023年5月1日現在）



❷ 神戸大学キャリアセンター

キャリアセンターは、学生のキャリア形成と就職活動を支援している。キャリアガイダンスやセミナー、進路や就職に関する相談などを提供。また、キャリア教育も行っており、総合教養科目・キャリア科目「職業と学び」を開講している。さらに、国内のインターンシップにも力を入れており、大学院生には中長期や研究インターンシップの仲介を行っている。



採用ご担当者さまへ

求人情報は下記WEBサイトからご提供いただいております。

推薦を伴う求人につきましては、対象の学部／研究科の教務学生係へも合わせてご送付ください。
【キャリタス UC】<https://uc.career-tasu.jp/corp/>



❸ 学生、教職員、卒業生は「東京オフィス」を利用できます

東京駅の次駅、JR有楽町駅前の便利な場所にある神戸大学東京オフィス。キャリアアドバイザー相談や、卒業生の協力によるOBOG訪問を実施。キャリアセンター東京分室として、首都圏での学生の就職活動を支援している。

▶ 東京オフィスのスタッフ



大学の施設なので、気軽で安心！

時間調整や作業での利用に。

乗り換えなども気軽にスタッフに聞けます。

PC・無線LAN・更衣室あり

荷物の預かり可

卒業生の方へ

東京オフィスでは、卒業生ネットワークづくりを推進し、首都圏で活躍する卒業生のために職種別・業界別にさまざまな交流会を開いています。下記URLからぜひご登録をお願いします。

https://www.kobe-u.ac.jp/info/outline/facilities/tokyo-office/registration_alumni.html



❹ その他の支援

❺ 博士学生への支援（大学院博士支援推進室）

神戸大学では、数理・データサイエンス教育プログラムの提供等の卓越博士人材育成を目的として、右記のとおり教育・研究・キャリア支援のためのコンテンツを「神戸大学博士学生支援総合パッケージ」として一体的に運用している。

経済的な支援に関しては、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業に採択されており、その内容はホームページで確認できる。

詳細は「博士学生向けインフォメーション」
http://www.career.kobe-u.ac.jp/doctor_info/



❻ 神戸大学博士学生支援 総合パッケージ

卓越博士人材育成を目的とした教育支援

留学支援プログラム

研究費獲得セミナー等の研究支援

博士学生向けキャリアガイダンス

アドバイザーによるキャリア相談

企業と博士学生との交流会

など



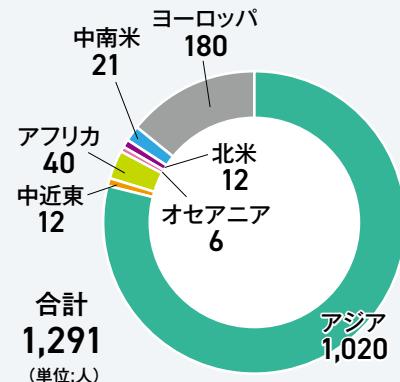
留学生の活躍

コロナ禍を乗り越え、留学生もキャンパスに帰ってきた。神戸大学はアジア圏を中心に約1300人の留学生を迎えており、「異文化共創」を担う大切な仲間への充実した支援は外部の評価も高い。2020年と2021年には一般財団法人 日本語教育振興協会主催の「日本留学AWARDS」で西日本地区国公立大学部門の大賞を受賞している。

※2022年の「AWARDS」はコロナ禍のため休止

※データは2023年5月1日現在

受け入れ留学生の地域別割合



神大留学経験者にインタビュー

恋した“神戸”がつなぐ縁



ジョージア出身

ソピコ ゴゴラゼ

Sopiko Gogoladze さん
(TOA 株式会社)

神戸大学では日本の「ソフトパワー」について研究しました。マンガやアニメだけでなく、日本語自体にもパワーがあります。欧洲にない言語で、漢字やカタカナを使う独特のスタイルに興味は尽きません。私が日本に関心を持ったのも日本語がきっかけでした。ドイツ語や英語を勉強している人は周りにたくさんいましたが、挑戦的なことがしたくて大学進学時から日本語の勉強を始め、留学するまでに至ったのです。

神戸大学は先生方や事務局の方々の対応から、学生を大切にしている気持ちが伝わってきます。規模も大きく、アジア、アフリカ、欧米など世界中から留学生が来していて、異文化性が強く感じられました。彼らと知り合えたことは、知

識を身につけるのと同じくらい大切で、私もより多くを学び、人として成長できたと思っています。

帰国後、ドイツに移り住み、自宅近くの求人で目にとまつたのがTOAでした。本社は神戸。神戸の街に恋をした私にとって、運命を強く感じる出会いでした。現在、TOAエレクトロニクスヨーロッパのドイツ本店（ハンブルク）で人事データの管理や経営アシstantの業務に就いています。最近はほかのスタッフが日本のことや日本語を知りたがるので、仕事の合間にちょっとしたワークショップを開きたいと考えています。



TOAエレクトロニクスヨーロッパ ドイツ本店の同僚たちと

MESSAGE



今川 大介さん

TOA執行役員
海外事業本部 欧州・中東・アフリカ事業部長
兼 シニアプロダクトダイレクター
TOAエレクトロニクスヨーロッパ 社長

TOAは神戸から音響や映像機器を世界に展開し、製品は世界120カ国で使われています。欧州、中東、アフリカ市場を網羅するTOAエレクトロニクスヨーロッパのスタッフは総勢130人。約20カ国の人たちが働き、社内で使われる言語も多様です。このような中で、ソピコさんは常に明るくコミュニケーションを取り、スタッフを鼓舞するリーダー的な存在になってくれています。縁があってドイツのオフィスで採用ましたが、TOAとは偶然にも「神戸」という共通点がありました。

TOA株式会社



所在地 兵庫県神戸市中央区港島中町7丁目2番1号
資本金 52億7900万円
売上高 451億円(2023年3月期)
従業員 3,112人(連結)
創業 1934(昭和9)年9月1日
上場取引所 東京証券取引所 プライム市場
主な事業 音響機器、映像機器、拡声放送機器、通信機器の製造・販売

神大 TOPICS

自然科学系図書館 リニューアルオープン

2023年4月、神戸大学自然科学系図書館がリニューアルオープンした。自学スペースに加え、グループでの研究活動やオンライン会議に利用できる協業スペースを多く設置し、文理融合を超えた「異分野共創研究教育グローバル拠点の形成」を掲げる神戸大学を象徴する新たな姿に生まれ変わった。

館内は壁の色をグレーで統一し、木を多く用いた内装と自然光を取り込む大きな窓で、明るく現代的な空間を作り出した。1階から4階を見上げられる吹き抜けのほか、2階には中庭も設けられており、従来の図書館像を覆すデザインとなっている。

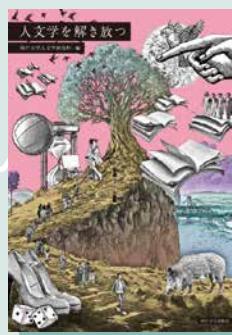
1階と2階は理学部、工学部、農学部の蔵書を中心を開架約2万冊を所蔵。3階、4階は自由に学び、議論し、研究を深める場を提供する。それぞれ木製のデスクやカウンターをゆったりと配置して自学や議論、ミーティング、休憩など目的ごとにエリアを分けている。

3階は自学やミーティングに使えるデスクが並ぶ「ラーニングコモンズ」を配置。一人用のテレワークスペース「オンラインポッド」や集中したい利用者に静かな環境を提供する「サイレントスペース」も用意した。さらに、足を伸ばしてリラックスできる障子と畳の“和”的空間も設け、さまざまな学習スタイルに応えるつくりとなっている。また4階は90人を収容可能な「イノベーションスタジオ」が目新しい。大型スクリーンを備え、プレゼンテーションなど多目的に利用できる。



(上)多くの自然光が差し込む吹き抜けの1階
(左)木を使って居心地のいい空間を創出
(下)くつろいだ姿勢で本が読める“和”的空間

BOOKS



人文学を解き放つ
神戸大学人文科学研究科 編
神戸大学出版会
定価1,980円（税込）

こういうこと やってもいいんだ、
人文学！かけがえのない人生の
真っただ中にいる きみたちへ。
神戸大学の（現・元）教員
たちが贈る 38 本のメッセージ
と最前線の人文知への誘い。
「今」をともにいきるために！



SDGsの時代における
価値と経済的価値
内田浩史 堂目卓生 著
神戸大学出版会
定価1,100円（税込）

経済的価値と社会的価値がせ
めぎ合うなかで、私たちは何を
頼りに進むべき道を選択すれ
ばよいのだろう。持続可能な
社会の実現に向けた課題と解
決の方策について2人の経済
学者が語る。



領域を超えない
民主主義
Fragmented Democracies
地方政治における競争と民意

神戸大学校友会のロゴマーク完成

卒業生、在学生、教職員、学生の家族を含めた、神戸大学にゆかりのある関係者からなる全学的な組織「神戸大学校友会」。そのロゴマークが完成した。

作成したのは発達科学部卒業のデザイナー・近藤聰さん（明後日デザイン制作所代表）。近藤さんはコンセプトについて「今までも、これからも、途切れることなくずっと続していく、神戸大学校友会の頭文字『K』のマークです。卒業生、在学生、教職員、あらゆる関係者が絡まり合いながら一つになる様を象徴しています」と説明している。

校友会の会員特典として宿泊施設、観光施設等の割引サービスなどを検討中。最新情報はホームページで確認できる。

【神戸大学校友会】 <https://www.org.kobe-u.ac.jp/ku-alumni/>



神戸大学校友会
KU-Alumni



アメリカンフットボール部の交流戦



神戸大学ファミリーの心をひとつに

アメリカンフットボール部レイバンズが主催する「全学新入生歓迎交流戦（対龍谷大学）」が2023年5月13日、王子スタジアム（神戸市灘区）で開催された。

天候はあいにくの雨だったが、同スタジアムにはSNSやポスターを見た学生、卒業生、教職員ら約300人が集まり、応援団総部の主導のもと“One Kobe Family”と書かれたタオルを掲げて声援を送った。

試合は、レイバンズが開始4分でタッチダウンを決めて勢いづくと、その後着実に得点を重ね、リードを保って前半終了。試合終了間際にも追加点をあげ、24対7で勝利を収めた。

応援に駆けつけた藤澤正人学長は「雨の中で傘もささず応援する学生たちと選手が一体になり、素晴らしい試合だった。学生活動で培った力をぜひ将来に生かしてほしい」と語った。

試合を終えたレイバンズの選手は「神戸大学の名を背負っていること、“Kobe Family”的一員であることを一層自覚する機会になった。我々の目標である『日本一』に向か、課題を克服し、さらに成長できるよう力を尽くしたい」と話した。

領域を超えない民主主義

砂原庸介 著
東京大学出版会
定価3,520円（税込）

地方政府の「領域」に注目しながら、地方政治の分裂した意思決定やその正統性の問題を扱うことで、日本の地方政治が抱える構造的問題を描き、解決の糸口を示唆する。



新国際物流論

基礎からDXまで
平田 燕奈 松田琢磨
渡部大輔 著
晃洋書房
定価2,970円（税込）

SDGsの実現、AI・自動化・DXの進行など、国際物流は新たな時代を迎えている。国際物流の基礎からDXの概要・課題・導入例まで、新時代に即した「国際物流論」。

神戸大学教職員および名誉教授等が
編著者となった書籍を紹介しています！

神大人。本
SHINDAI JIN NO HON



<https://shindai-books.gitlab.io/>



神大生、今昔



学生変われど、愛情ある厳しさ

ピザハウスF 藤田 静江さん

「料理と店の雰囲気、私のテンポが合えば、また来てくれる。それだけや」ー。多くの神戸大学生が乗降する阪急電鉄・六甲駅から徒歩5分、「ピザハウスF」を営む藤田静江さんはきっぱりと言う。御年87歳。辛うつに聞こえる言葉の裏に、愛情があふれる。

開業以来50年以上にわたって神大生を見てきた。「体育会系の学生はまづビール。4、5人で1ケース（20本）は開けてた」と、昭和世代の学生を思い出しながら目を細める。就職などで人生の選択に迷う学生の相談に乗ることも多かった。「私は真正面から答えたる。何人も泣かしたわ」と藤田さん。ただ「騒いでた子ほどちゃんと就職していった。定年後に私の顔を見に来てくれる人もいれば、遠方から手紙をくれる人もいるで」と話す様子は、わが子の成長を喜ぶ親のようだ。

「最近の学生は厳しいと来なくなるから言われへん。私も稼がなあかんし」と笑うが、「聞かれたらはっきり言うけどな」と正面から向き合う姿勢は崩さない。「何かを感じたところに人は帰ってくるもんや」と、今日もキビキビと開店準備に取りかかる。



表紙写真的撮影場所: 臨海実験施設「マリンサイト」

神戸大学内海域環境教育研究センターは海藻類系統株保存室のある六甲台キャンパスのほか、深江キャンパス、淡路島の臨海実験施設「マリンサイト」を拠点にする。中でもマリンサイトは宿泊機能を備え、滞在して研究できるセンターの中核。教育共同利用拠点として文部科学省の認定も受けている。

読者の皆様へアンケートのお願い

神戸大学広報誌「風」21号をお読みになった感想をお聞かせください。アンケートにご協力いただきたい方の中から抽選で5名様にうりぼーミニマスコットをプレゼントいたします。

プレゼント応募は
9月29日締切



WEBフォーム



神戸大学広報誌
Vol.21
July 2023

発行日／2023年7月 編集・発行／神戸大学 総務部広報課 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
TEL: 078-803-5083 FAX: 078-803-5088 URL: <https://www.kobe-u.ac.jp/>

©神戸大学 ※本誌に掲載されている記事、写真、図表の無断転載を禁じます。

